

メキシコでもシェール革命に期待！

新興国の中でも投資家の期待が特に高いメキシコで、昨年12月にエネルギー改革法案が議会で承認されました。

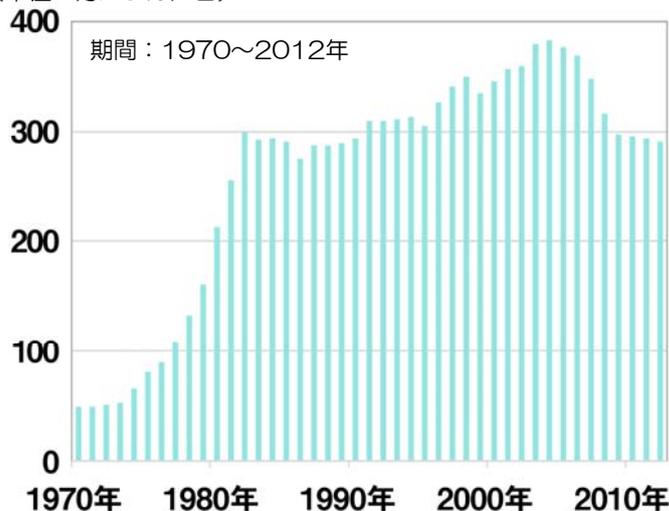
メキシコはOPEC（石油輸出国機構）に加盟する産油国ですが、近年は資金や技術の不足から、油田やガス田の新規開発が進まず生産量が減少。同国では1938年以降、約75年に渡って国営のメキシコ石油公社（PEMEX）が石油・天然ガスの探査および生産・販売を独占してきたためでもあります。

そうした中、今回の改革では外資を含む民間企業も独自に石油・天然ガスの探査や生産を行えるようになったほか、ガソリンスタンドの開設なども可能となります。これにより、米国シェールオイルの一大産地であるテキサス州に隣接する北部地域でのシェール開発や、メキシコ湾の海底油田開発も進むことが期待されています。また、国内需要の拡大により輸入が増加傾向にある、天然ガスの自給力向上の可能性も出てきました。今後海外からの投資額は40年間で最大約125兆円（2014年GS調べ）増加する見込みです。また、高い資本力や技術力を持つ米国の大手石油会社、探査開発会社などにとっても大きなビジネスチャンスに繋がるでしょう。

エネルギー改革による海外からの投資拡大は、メキシコの成長率を高めると予測されています。今後メキシコでも米国のシェール革命と同様の動きが起こるかも知れません。

メキシコの石油生産量推移

（単位：万バレル／日）



メキシコの油田地帯



本資料は、情報提供を目的としてゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社（以下「弊社」といいます。）が作成した資料であり、特定の金融商品の推奨（有価証券の取得の勧誘）を目的とするものではありません。本資料に記載された過去のデータは将来の結果を保証するものではありません。本資料は、弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、弊社がその正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された市場の見通し等は、本資料作成時点での弊社の見解であり、将来の動向や結果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。個別企業あるいは個別銘柄についての言及は、あくまで例示をもって理解を深めていただくためのものであり、当該個別銘柄の売買、ポートフォリオの構築、投資戦略の採用等を推奨あるいは勧誘するものではありません。本資料の一部または全部を、弊社の書面による事前承諾なく(Ⅰ)複製、写真複製、あるいはその他いかなる手段において複製すること、あるいは(Ⅱ)再配布することを禁じます。

<審査番号：123886.OTHER.MED.OTU> © 2014 Goldman Sachs. All rights reserved.